

屋久島自然休養林保護 管理協議会の統一総会を開催

入林者が昨年の一五%増で推移しているところですが、協議会を統一して一体的に運営の充実を図ることとなりました。

今まで同協議会は荒川地区と白谷地区と別々に設置されていましたが、昨年の荒川地区の協議会において会員から統一の意見が出され、その後、両協議会の全員一致での決定を受けて、今般統一の総会を開催しました。

初代会長には、屋久町長が選出されました。また、今年度の活動体制は、両協議会とも総会が終了していることから、実施事業・予算などは両総会での決定事項をそのまま継承することです。

屋久島生態系モニタリング

国割岳西斜面の植生の垂直分布 標高1000m地点

屋久島の標高1000m付近は、スギの最適地であり、谷側にはスギ、尾根部にはモミ・ツガが優占する。

プロット内出現種
胸高直径1cm以上—20種
林床木本—14種
林床草本—4種

○優占種：イスノキ・ヒサカキ群落
イスノキの大径木が目立ち、ヒサカキの出現数も多い。暖帯林の植生である
○標徴種：ヒメシャラ・イスノキ

○藓苔類
尾根の上では風通しが良く、密な樹林帯のため林内は暗く藓苔類の発達はあまり良くない。

オオスギゴケ・ホンシノブゴケ・ホソバオキナゴケ・ヒロハノキゴケを確認。

植生の分布状況
顕著な変化は見られないが、温帯系の植物の比率が高くなり、暖帯系の植物の出現数が少なくなる。

極相の樹林帯であるので、出現種数が少ない。

第三回屋久島 山岳利用対策協議会

十一月二十七日、上屋久町で同協議会が開催され、夏休み

第一回愛子まつり 愛子岳登山が実施されました

愛子様の誕生日に当たる十二月一日に、小瀬田区が主催した第一回愛子まつりのメインイベントとして、地元伊藤森林官が中心となり、参加者

期間中の登山者の動向と反省、荒川登山口の駐車場問題等話し合いました。また、来年度も引き続きWG期間中の荒川登山口の交通規制、夏休み期間中のパトロールを行うことが確認されました。なお、今後の活動については次回の協議会で話し合うことになりました。

JICA研修生 白谷雲水峽等を視察

十月一七日に森林総合研究所受け入れによるブラジルの研修生が土壌浸食に関しての視察に訪れました。

また、十一月一日には、(財)自然環境研修センター受け入れによるマレーシア国の一五名が自然保護に関する諸施策の展開を視察しました。更に、一九日には、鹿児島県受け入れによる研

屋久島の植物



タシロルリミノキ
あかね科

屋久島付近を分布の北限とする常緑の低木。屋久島では低山に普通に見られ、高さ一・五m。晩春からずっと蕾だったものが、十月に入って直径5mmほどの毛の多い白く美しい花を一斉に咲かせる。そして十一月中旬には果実も見られる。

を一般公募して愛子岳登山が行われました。

当日は朝からあいにくの雨で、六三名の参加申し込み者が約半分になりましたが、午後から天気が回復すると、予報で登山を決行しました。

参加者は、合羽を着て朝七時に登山口を出発、急峻でぬかるんだ登山道を一步一步慎重に進み、苦勞して登頂に成功しました。その甲斐あって、

研修生が、世界遺産と国有林管理の現地実習に訪れました。

今後、



森林技術総合研究所の受け入れによる研修が計画されているなど、当センターには、年間を通して多くの海外の方々から屋久島の森林保全の展開等を視察に訪れていただきます。



当センターでは登山の目安となるよう、一〇〇mごとに標高板を設置しました。一区分(標高差一〇〇m)が二分程度の目安となると思えます。今回参加できなかった方も標高板を参考に愛子岳にぜひチャレンジしてみてください。

世界杉環境サミット

11月8日（金）、屋久町、環境省、林野庁の共催による「世界杉環境サミット in 屋久島」が安房で開かれました。

このサミットは、最近、林業不振や花粉症などで日陰者扱いされがちな「杉」という樹木について、その人との様々な関わりをもう一度見直し、身近な環境としての意義や、ひいては地球温暖化などの環境問題を考えるきっかけとする狙いで行われました。

午前中に開かれた分科会では、スギの保全と利用について、①屋久島のスギの歴史と現状、②日光・今市市や熊本県菊陽町における杉並木の保全対策、③地スギの特性を活かした建築利用、④林業を楽しむための発想転換、⑤エコツーリズムの発展から考える屋久島らしい地域活性化、といった話題が発表されました。また、スギ花粉症の正体と原因、花粉対策などについて興味深い発表がありました。

午後のサミットでは、世界一高い樹木といわれるカリフォルニア州のセコイア杉を保全するため人工的に山火事を起こす取り組みや、日光杉並木を守るためのオーナー制度の紹介がありました。次に基調講演として、宇宙飛行士の毛利衛さんが、宇宙から見た地球の美しさに触れ、環境を守るためにも、宇宙への挑戦に見られるような科学技術の成果を総動員していかなければならないと話されました。また、3年前に宇宙から交信した当時の岳南中学生など参加中高生との交流を楽しめました。

最後に、分科会発表者を交えたパネルディスカッションで、古くから人間の手によって植えられてきたスギについて、木材利用の問題のみならず、縄文杉や日光杉並木などの保全を通じた観光振興、更には花粉症など人間の体内環境との関係も取り上げられ、スギの様々な側面から我々を取り巻く経済・社会問題を浮かび上がらせました。

ヤクスギランドの危険木を除去

屋久島森林管理署では、昨年九月の大雨の際にヤクスギランド「苔の橋」に流木が衝突し、欄干が破損したことから、このたび「苔の橋」上流部河川敷に点在する流木をヘリコプターにより搬出・処理しました。利用者の方には騒音等ご迷惑をおかけしました。

自然休養林・秋期期間中の入場者

